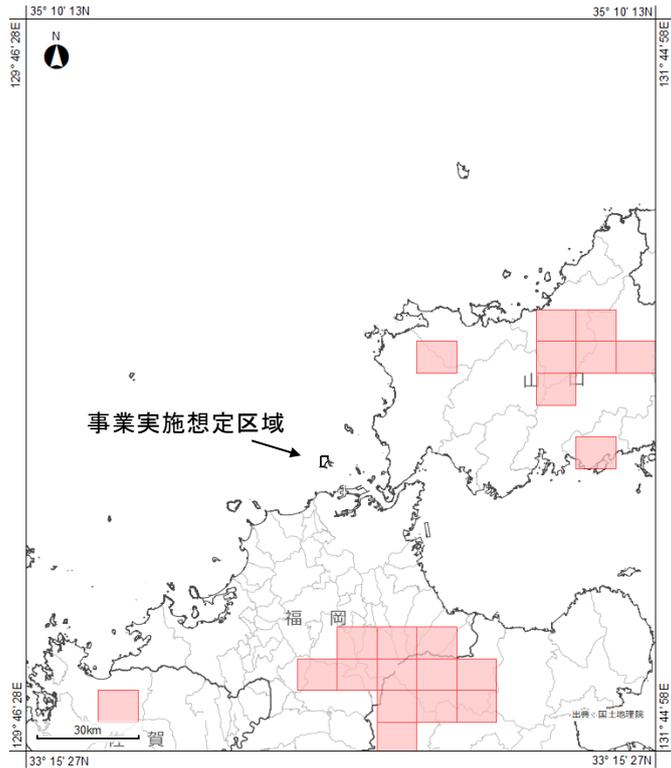


凡例

- | | | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------|----------------------------------|--|
| 日中の渡りルート
[ハクチョウ類]
→ ハクチョウ類 | 日中の渡りルート
[ツル類]
→ ツル類 | 日中の渡りルート
[サシバ]
→ サシバ | 日中の渡りルート
[ハチクマ]
→ ハチクマ | 夜間の渡りルート
[春季]
→ 夜間の渡りルート
(春季) |
| 日中の渡りルート
[ガン類]
→ ガン類 | 日中の渡りルート
[アカハラダカ]
→ アカハラダカ | 日中の渡りルート
[ノスリ]
→ ノスリ | 日中の渡りルート
[その他猛禽類]
→ その他猛禽類 | 夜間の渡りルート
[秋季]
→ 夜間の渡りルート
(秋季) |

出典：「風力発電における鳥類のセンシティブリティマップ」（環境省、環境アセスメントデータベース、令和6年11月閲覧）

図 3.1-21 鳥類の渡りのルート



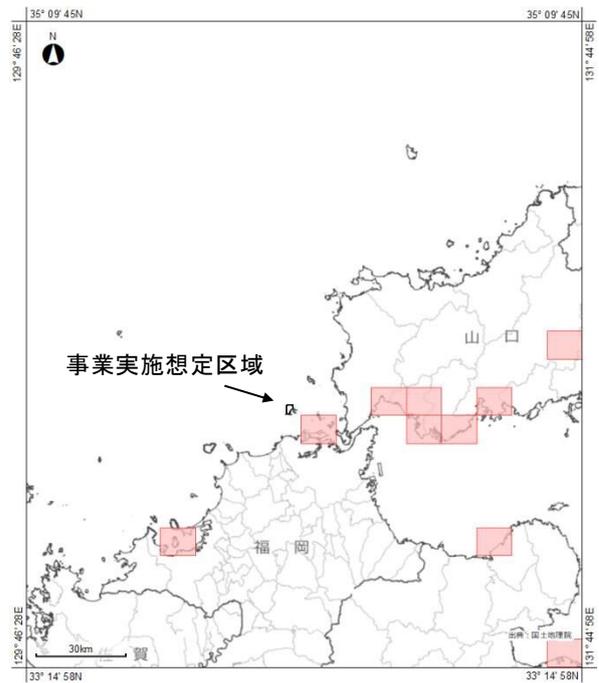
クマタカの分布図
■ クマタカ

クマタカの分布



サンカノゴイの分布図
■ サンカノゴイ

サンカノゴイの分布

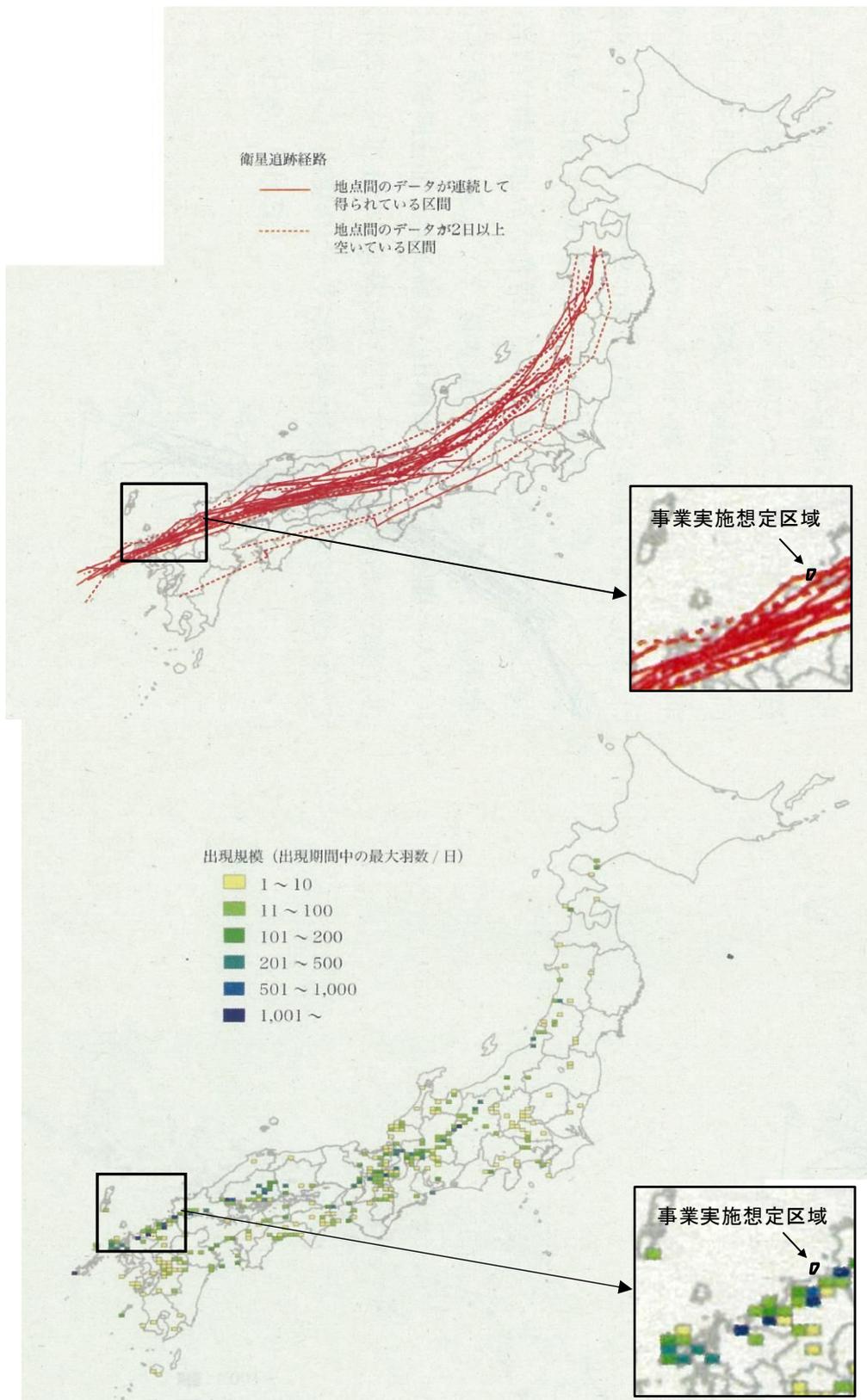


チュウヒの分布図
■ チュウヒ

チュウヒの分布

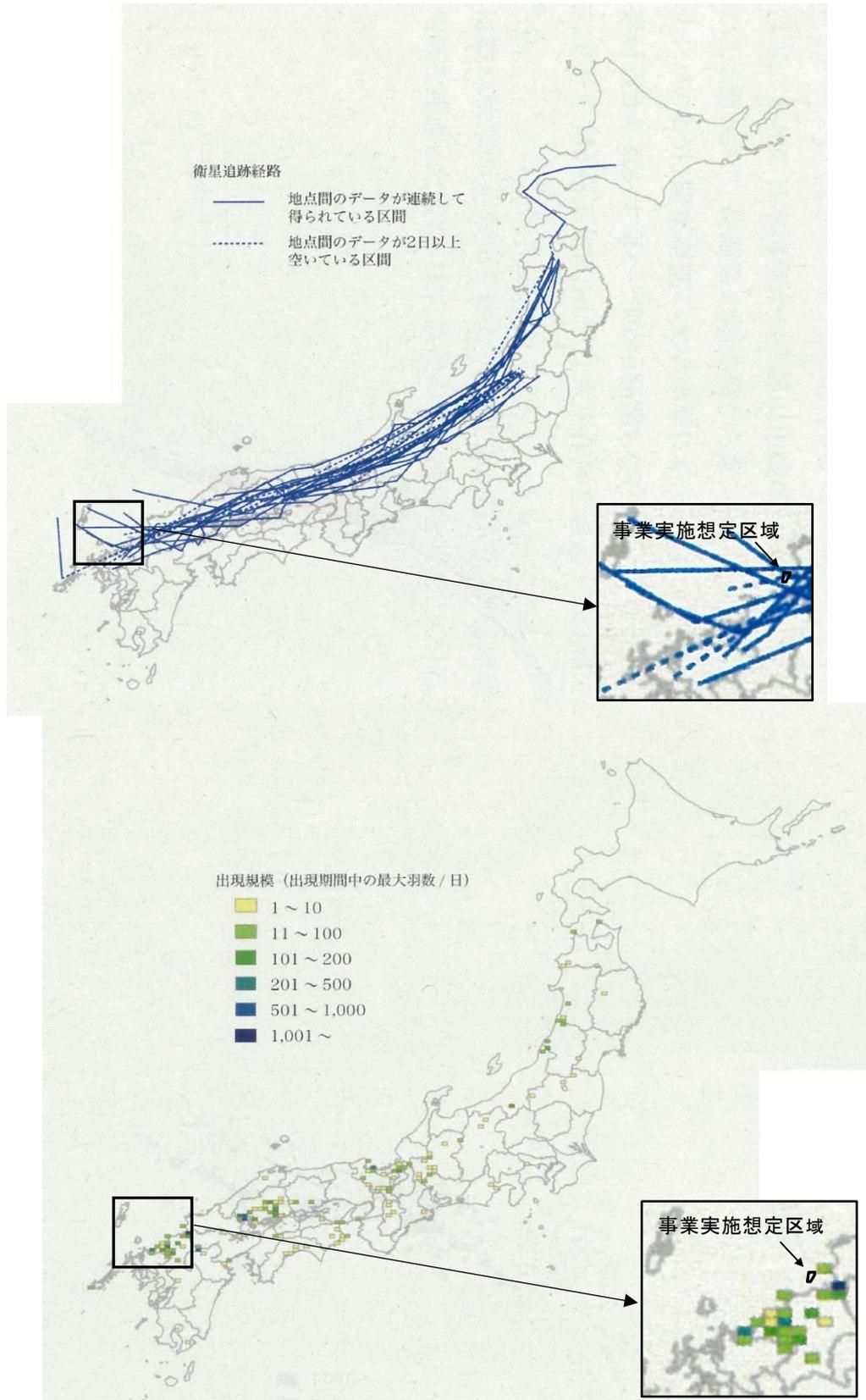
出典：「風力発電における鳥類のセンシティビティマップ」（環境省、環境アセスメントデータベース、令和6年11月閲覧）

図 3.1-22 事業実施想定区域周辺に見られる重要種の分布



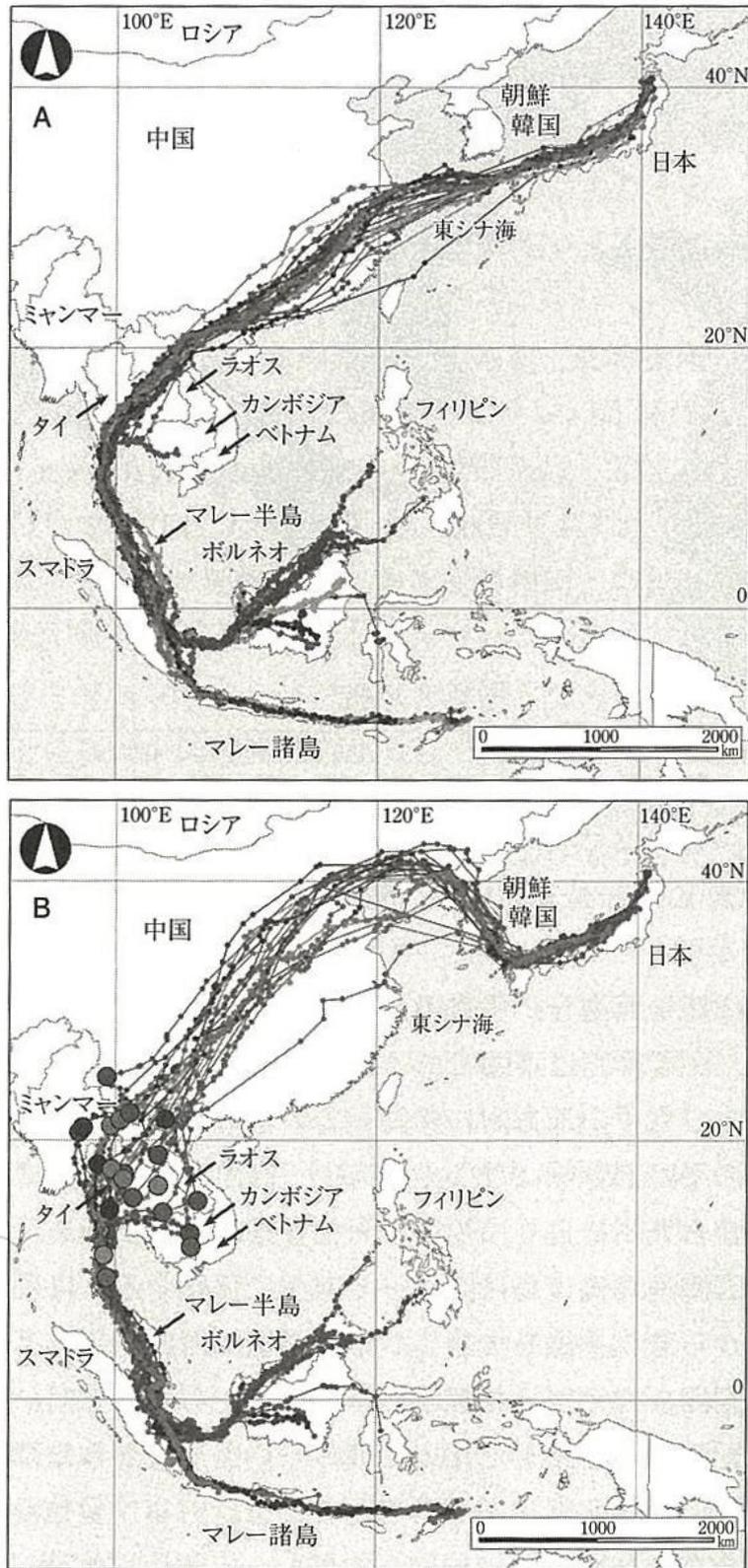
出典：「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引きについて」（環境省自然環境局野生生物課，平成 23 年 1 月）

図 3.1-23 ハチクマの渡り経路（秋季）



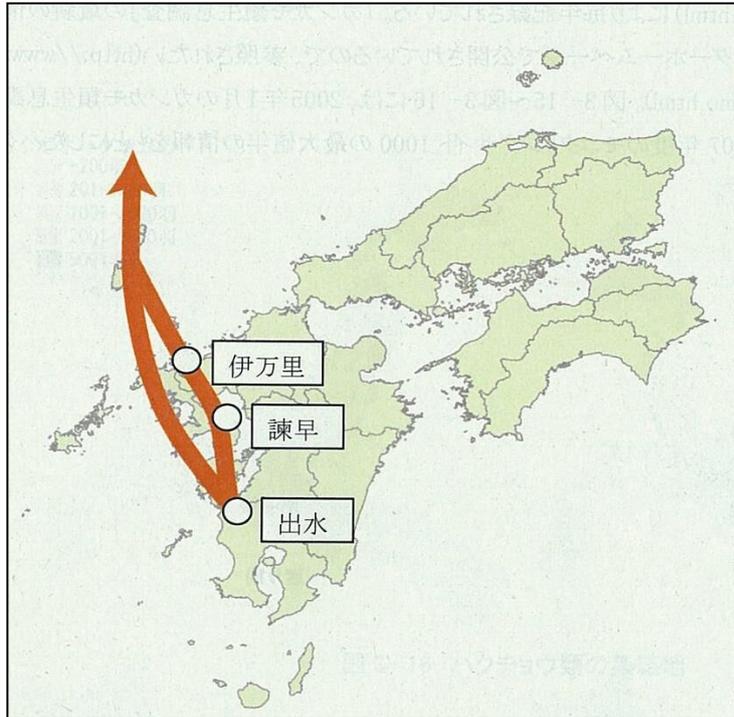
出典：「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引きについて」（環境省自然環境局野生生物課，平成 23 年 1 月）

図 3.1-24 ハチクマの渡り経路（春季）



注) 2003-2008 年にかけて、青森県、山形県、長野県から衛星追跡された結果を示す。
 出典：日本のタカ学 生態と保全 (樋口広芳編, 2013 年)

図 3.1-25 ハチクマの渡り経路の全容 (上/秋の渡り、下/春の渡り)



出典：「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引きについて」（環境省自然環境局野生生物課，平成 23 年 1 月）

図 3.1-26 ツル類の渡り経路

NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究（エコ・パワー株）では、事業実施想定区域周辺において、船舶トランセクト、洋上定点調査及び陸上定点調査が実施されている（図 3.1-27 参照）。

船舶トランセクト及び洋上定点調査では、8 目 13 科 16 種の鳥類が確認され、季節別では、春季 9 種、繁殖期 3 種、夏季 4 種、秋季 6 種及び冬季 12 種であった（表 3.1-42 参照）。確認された鳥類の内、重要種として指定されている鳥類種は、カンムリカイツブリ、ヒメウ、カンムリウミスズメ、ハヤブサ、ミサゴであった。

船舶トランセクト調査における鳥類の確認種について、各測線の距離区分別の出現状況を季節毎の平面分布として図 3.1-28～図 3.1-32 に示した。

主に確認された種は、冬季を除き、オオミズナギドリであった。オオミズナギドリの出現状況は、春季は a、b 測線において、北側の沖合に多く見られ、c、d 測線では南側に多く見られた。また繁殖期には、c 測線の南側に、夏季は、a、c 測線の南側に多く見られたが秋季には全体的に少ない状況であった。冬季には、オオミズナギドリは確認されず、ウ類及びカモメ類が南側に多く見られた。事業実施想定区域における鳥類の出現個体数は、全季節を通じて比較的少ない状況であった。

陸上定点調査では、ハチクマの渡りについて着目しており、風師山と響灘緑地の両地点において、春季（5 月）に 12 個体、秋季（9 月）に 364 個体が確認された（表 3.1-43 参照）。

一方、洋上定点においてハチクマ等の渡り鳥は確認されなかったことから、ハチクマ等の主な渡りの経路は陸沿いにあるものと推定される。